

<総括>

出題数 現代文2題・古文1題・漢文1題

試験時間 120分

大問一 本文の分量が増したが、読みやすい文章だった。客観問題がなくなり、すべて論述になった。記述量は大幅に増加。

大問二 本文の分量は減少。すべて論述だが、記述量は減少した。

新課程を踏まえた出題 (大問二 問5)

本文の具体例を参考に、自分で適切な具体例を挙げて説明する問題が出題された。思考力・判断力・表現力など、文章読解に主体的に取り組む力を測る問題である。

<本文分析>

大問番号	一	二
出典 (作者)	『聞くこと、話すこと。人が本当のことを口にするとき』大和書房(尹 雄大)	「資本主義にとっての有限性と所有の問題」 『所有とは何か——ヒト・社会・資本主義の根源』中央公論新社所収(山下範久)
頻出度合 ・的中等	入試でしばしば見かける筆者である	入試での出題は稀である
分量 前年比較	分量(減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加) 約3940字→約4500字	分量(減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加) 約3000字→約2600字
難易 前年比較	難易(易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)	難易(易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)
一	評論	問1	論述	標準	「!」「?」の表記に留意して考える。 「どちらも」の中身を書き、「音のズレ」を説明する。 設問の要求を踏まえ、解答範囲を確定する。 問3と同様、解答範囲の確定を慎重におこなう。 傍線部全体を説明する。「繊細さ」の解釈が鍵。 本文全体の論旨を踏まえ、傍線部を説明する。
		問2	論述	標準	
		問3	論述	標準	
		問4	論述	標準	
		問5	論述	やや難	
		問6	論述	やや難	
二	評論	問1	論述	標準	解答箇所は決まるが、まとめづらい。 理由説明問題になっていることに留意する。 傍線部前後の内容を踏まえる。 傍線部に即して丁寧に説明する。 新課程を意識した設問。論旨を踏まえ事例を考える。 近代法に即して説明する。
		問2	論述	やや難	
		問3	論述	標準	
		問4	論述	標準	
		問5	論述	難	
		問6	論述	標準	

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

評論だけでなく、柔らかめの随筆なども読んでおくとよい。  
書き取りは出ないが、読解の基礎なので対策を講じておこう。  
長大な論述に慣れておく。  
日頃から、読んだ文章を自分に関わりあるものとして理解を深めるようにしよう。

国語(古文) 九州大学 教育・法・経済(経済・経営)学部 2/3

<総括>

出題数 現代文2題・古文1題・漢文1題

試験時間 120分

三は、鎌倉時代の日記「うたたね」からの出題で、本文は読み取りにくく、設問には答えにくいものがあった。

<本文分析>

大問番号	三
出典 (作者)	うたたね(阿仏尼)
頻出度合 ・的中等	2024年度夏期講習『九大古典』的中
分量 前年比較	分量(減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加)約520字→約580字
難易 前年比較	難易(易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)
三	日記	問1	記述	標準	現代語訳
		問2	記述	やや易	文法問題
		問3	記述	標準	指示語の説明
		問4	記述	やや難	理由説明問題
		問5	1 客観	易	句切れの判断
			2 記述	やや難	内容説明問題
		問6	記述	やや難	内容説明問題
	問7	客観	標準	文学史問題	

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

文法や単語といった基本の力をしっかりと身に付け、それを踏まえた解釈が出来るように学習を重ね、その上で、設問にきちんと対応できるような記述力を身に付けること。また、さまざまなジャンルの問題にあたるようにしておこう。

<総括>

出題数 現代文2題・古文1題・漢文1題

試験時間 120分

二つの漢文の組み合わせから出題。呉の君主孫権から見た、臣下である諸葛瑾の人物像が述べられている。人物関係を把握するのに、注意深く本文を読み、注を確認する必要があるため、やや難しい。

<本文分析>

大問番号	四
出典 (作者)	『三国志』呉志卷七・裴松之注(本文・注ともに中略あり)
頻出度合 ・的中等	なし
分量 前年比較	分量(減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加) 219字→213字
難易 前年比較	難易(易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)
四	漢文	問1	記述	やや難	「子瑜之不負孤、猶孤之不負子瑜也。」 (1) 書き下し文に改めよ。 (2) 現代語訳せよ。 *「猶(なほ〜ごとし)」、「負(そむく)」がポイント。
		問2	記述	標準	「何以不留孔明」の理由。傍線部の直前をまとめる。
		問3	記述	易	書き下し文に従って返り点をつける。
		問4	記述	やや難	「其言足貫神明、今豈当有此乎。」の現代語訳。 *反語の訳と「此」の指示内容がポイント。
		問5	記述	やや難	「非外言所問也」の書き下し文。 *「問」の読み方が難しい。
		問6	記述	標準	「不易」「為人」「若」の読み。

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

- ・さまざまなジャンルの漢文にふれておこう。
- ・重要語句や構文をマスターし、書き下し文に改める問題に対応できるようにしておこう。
- ・説明問題に十分対応できるように、正確な読解力と答案作成力を養っておこう。
- ・文学史・思想史に関する基礎知識を養っておこう。